

# Publisher's Review

パブリッシャーズ・レビュー

●東京大学出版会・白水社・みすず書房のPR紙●



## みすず書房の本棚

[無料送付]

No. 31 2019 夏

(表示価格は税別です)

113-0033 東京都文京区本郷 2-20-7 tel. 03-3814-0131 www.msz.co.jp

### 「共感」がもたらした 七十年後の奇跡

繁沢敦子



浦上天主堂 (本書より)



グラウンド・ゼロ (爆心地)を示す旧標識(本書より)

人との出会いが思わぬ展開を招くことがある。出会いを求めるといふのは、そういうことへの期待があるからだろう。ときとして宿命ではなかったかと思ふような、予期せぬ出会いも存在する。本書『ナガサキ』の著者、スーザン・サザードと谷口稜暉との場合がそうではなからうか。そのふたりが出会って本書が生まれた。本書が存在するいま、存在しない世界はもう考えられない。被爆地の問題、核兵器の問題を考えるうえで本書はそれほど必要不可欠に思える。

ヒロシマとナガサキ。日本に存在するふたつの被爆地は、核兵器廃絶という目標に向けて協調してきた。一方で「世界最初の」という頭書きがつくヒロシマに対して、ナガサキへの世間の脚光は控え目でありがちだった。それはしばしば「もうひとつの」「同じような」観光地としての位置づけでしかなかった。どうし

「原爆投下の必要性についての質問に答える際、私は被爆者の体験に再度目を向けるよう人々を促す。それなしには広島と長崎への原爆攻撃の軍事的、道徳的な問題、そしてそれが人間の生死にどう関わるかを徹底的に議論することはできない。(…)人類の歴史において核兵器の攻撃とその後の惨状を生き抜いてきた唯一の人々である被爆者。人生の終わりの時期に差しかかっている彼らの記憶のなかには私たちの心を奮い立たせるような、核戦争による長期の破壊的影響についての明白な事実が刻まれている」

郵便局の配達員、路面電車の運転手あるいは軍需工場に駆り出されるごくふつうの十代の若者だった「語

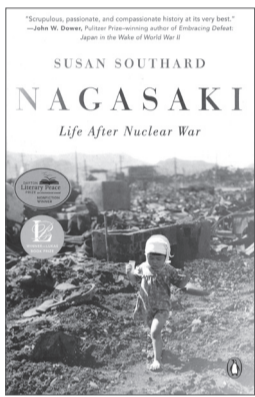
### 「このうえない歴史書」

(J・ダワー)

スーザン・サザード

《ナガサキ 核戦争後の人生》

宇治川康江訳



「原爆投下の必要性についての質問に答える際、私は被爆者の体験に再度目を向けるよう人々を促す。それなしには広島と長崎への原爆攻撃の軍事的、道徳的な問題、そしてそれが人間の生死にどう関わるかを徹底的に議論することはできない。(…)人類の歴史において核兵器の攻撃とその後の惨状を生き抜いてきた唯一の人々である被爆者。人生の終わりの時期に差しかかっている彼らの記憶のなかには私たちの心を奮い立たせるような、核戦争による長期の破壊的影響についての明白な事実が刻まれている」

「原爆投下の必要性についての質問に答える際、私は被爆者の体験に再度目を向けるよう人々を促す。それなしには広島と長崎への原爆攻撃の軍事的、道徳的な問題、そしてそれが人間の生死にどう関わるかを徹底的に議論することはできない。(…)人類の歴史において核兵器の攻撃とその後の惨状を生き抜いてきた唯一の人々である被爆者。人生の終わりの時期に差しかかっている彼らの記憶のなかには私たちの心を奮い立たせるような、核戦争による長期の破壊的影響についての明白な事実が刻まれている」

「原爆投下の必要性についての質問に答える際、私は被爆者の体験に再度目を向けるよう人々を促す。それなしには広島と長崎への原爆攻撃の軍事的、道徳的な問題、そしてそれが人間の生死にどう関わるかを徹底的に議論することはできない。(…)人類の歴史において核兵器の攻撃とその後の惨状を生き抜いてきた唯一の人々である被爆者。人生の終わりの時期に差しかかっている彼らの記憶のなかには私たちの心を奮い立たせるような、核戦争による長期の破壊的影響についての明白な事実が刻まれている」

「原爆投下の必要性についての質問に答える際、私は被爆者の体験に再度目を向けるよう人々を促す。それなしには広島と長崎への原爆攻撃の軍事的、道徳的な問題、そしてそれが人間の生死にどう関わるかを徹底的に議論することはできない。(…)人類の歴史において核兵器の攻撃とその後の惨状を生き抜いてきた唯一の人々である被爆者。人生の終わりの時期に差しかかっている彼らの記憶のなかには私たちの心を奮い立たせるような、核戦争による長期の破壊的影響についての明白な事実が刻まれている」

「原爆投下の必要性についての質問に答える際、私は被爆者の体験に再度目を向けるよう人々を促す。それなしには広島と長崎への原爆攻撃の軍事的、道徳的な問題、そしてそれが人間の生死にどう関わるかを徹底的に議論することはできない。(…)人類の歴史において核兵器の攻撃とその後の惨状を生き抜いてきた唯一の人々である被爆者。人生の終わりの時期に差しかかっている彼らの記憶のなかには私たちの心を奮い立たせるような、核戦争による長期の破壊的影響についての明白な事実が刻まれている」

「原爆投下の必要性についての質問に答える際、私は被爆者の体験に再度目を向けるよう人々を促す。それなしには広島と長崎への原爆攻撃の軍事的、道徳的な問題、そしてそれが人間の生死にどう関わるかを徹底的に議論することはできない。(…)人類の歴史において核兵器の攻撃とその後の惨状を生き抜いてきた唯一の人々である被爆者。人生の終わりの時期に差しかかっている彼らの記憶のなかには私たちの心を奮い立たせるような、核戦争による長期の破壊的影響についての明白な事実が刻まれている」

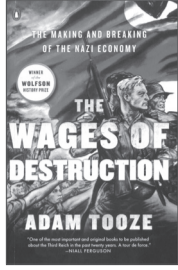
「原爆投下の必要性についての質問に答える際、私は被爆者の体験に再度目を向けるよう人々を促す。それなしには広島と長崎への原爆攻撃の軍事的、道徳的な問題、そしてそれが人間の生死にどう関わるかを徹底的に議論することはできない。(…)人類の歴史において核兵器の攻撃とその後の惨状を生き抜いてきた唯一の人々である被爆者。人生の終わりの時期に差しかかっている彼らの記憶のなかには私たちの心を奮い立たせるような、核戦争による長期の破壊的影響についての明白な事実が刻まれている」

「原爆投下の必要性についての質問に答える際、私は被爆者の体験に再度目を向けるよう人々を促す。それなしには広島と長崎への原爆攻撃の軍事的、道徳的な問題、そしてそれが人間の生死にどう関わるかを徹底的に議論することはできない。(…)人類の歴史において核兵器の攻撃とその後の惨状を生き抜いてきた唯一の人々である被爆者。人生の終わりの時期に差しかかっている彼らの記憶のなかには私たちの心を奮い立たせるような、核戦争による長期の破壊的影響についての明白な事実が刻まれている」

「原爆投下の必要性についての質問に答える際、私は被爆者の体験に再度目を向けるよう人々を促す。それなしには広島と長崎への原爆攻撃の軍事的、道徳的な問題、そしてそれが人間の生死にどう関わるかを徹底的に議論することはできない。(…)人類の歴史において核兵器の攻撃とその後の惨状を生き抜いてきた唯一の人々である被爆者。人生の終わりの時期に差しかかっている彼らの記憶のなかには私たちの心を奮い立たせるような、核戦争による長期の破壊的影響についての明白な事実が刻まれている」

「原爆投下の必要性についての質問に答える際、私は被爆者の体験に再度目を向けるよう人々を促す。それなしには広島と長崎への原爆攻撃の軍事的、道徳的な問題、そしてそれが人間の生死にどう関わるかを徹底的に議論することはできない。(…)人類の歴史において核兵器の攻撃とその後の惨状を生き抜いてきた唯一の人々である被爆者。人生の終わりの時期に差しかかっている彼らの記憶のなかには私たちの心を奮い立たせるような、核戦争による長期の破壊的影響についての明白な事実が刻まれている」

「原爆投下の必要性についての質問に答える際、私は被爆者の体験に再度目を向けるよう人々を促す。それなしには広島と長崎への原爆攻撃の軍事的、道徳的な問題、そしてそれが人間の生死にどう関わるかを徹底的に議論することはできない。(…)人類の歴史において核兵器の攻撃とその後の惨状を生き抜いてきた唯一の人々である被爆者。人生の終わりの時期に差しかかっている彼らの記憶のなかには私たちの心を奮い立たせるような、核戦争による長期の破壊的影響についての明白な事実が刻まれている」



二〇世紀初頭まで、知的活動への参加は一部の特権階級に限られていた。その後の社会変遷で知識への門戸はかつてないほど広く開かれ、専門家と一般人との接触も増えた。にもかかわらず、専門知への敬意は消えつつあり、怒りすら向けられている。

歪んだ平等意識。民主主義のはき違え。自分の考えに沿った情報を受け入れる「確認バイアス」。頭の悪い人ほど自分は頭が悪くないと思う「ダニング・クルーガー現象」。つまり自分の信じたいことだけを信じ、専門知を否定し、自分の「意見」は専門家の「意見」と等しく尊重されるべきだと言う。専門知の否定に自己実現を感じ、無知を恥じない。今アメリカで、こうした風潮が危機的なまでに興隆し、民主主義を蝕んで

## 対岸の火事ではない

トム・ニコルズ  
《専門知は、もういらぬのか 無知礼賛と民主主義》  
高里ひろ訳

いると著者は言う。自由、平等、教育など普遍的価値について、その誤用を指摘することは難しい。猛攻撃を受けかねない。それを本書は上手くやりとげた。身も蓋もなく一刀両断だが、上から目線を感じさせない。

この無知礼賛とも呼べる状況は決して対岸の火事ではないと、多くの人が感じるだろう。日本の状況を考えるうえで、今後は必ず一冊。「目次抄」なぜか話話、こんなに疲れるようになったのか/高等教育—お客さまは神さま/ちよつとググってみますね—無制限の情報があるを愚かにする/「新しい」ニュージャーナリズム、はびこる/専門家が間違えるとき/専門家と民主主義。

【反知主義】【七月中旬刊】(四六判312頁・予三三〇〇円)

## 第三帝国国の経済像を塗りかえる

アダム・トゥーズ  
山形浩生・森本正史訳

《ナチス経済の興亡(仮) 全2巻》

序文より。「ここではこう述べるにとどめよう。第三帝国史の概略は、数十年にわたる大変な研究により深く刻まれてきたが、本書のような語り口は新しいものだ。私の目標は読者に、ヒトラーがいかにして権力につき、社会を戦争へと動員したのか、もっと深く広く理解してもらうことだ。私はドイツを戦争へと突入させた力学に新たな説明を加え、それがどうやって1941年まで戦争活動を巧みに維持し、雪のロシアで運命の限界に達したのかを説明する。次に本書は、いまだに

新大陸の征服場面を古代ギリシアの神話的世界に移し換えた大航海時代の銀杯。ホッブズの『リヴァリアン』扉絵に2ミリの大きさで描かれた

なぜ現在の教育システムが時間と金のムダなのかを、実証データで徹底分析。

「私が考えるアメリカの教育制度の最大の欠点は、教育のしすぎである。典型的な学生は、生産性を上げるわけでも人生を豊かにするわけでもない教科の勉強に何千時間も費やす。なぜ市場はこんな暇つぶしに報酬を払うのか? 教育の金銭的な見返りが過去最高となっている時代に教育を無駄だなどと言ええるのか? 大卒の収入プレミアムは70%超に急上昇した。教育が労働者の生産性を実際に上げないとしたら、なぜ雇用主は教育を受けた労働者にこれほどの高値をつけるのか。」

【経済学】【七月中旬刊】(四六判536頁・予四六〇〇円)

## 分野横断・文化横断的に問う

R・アズリア/D・エルウー・レジエ編  
増田・伊達・鶴岡・杉村・長井編訳

《宗教事象事典》



グローバル化、人口移動、高速の情報通信…地球のさまざまな場所での民族の神話を育み、独自の文化と伝統を織りなしてきた人類は、今かつてないほどの相互接触を経験している。多様なアイデンティティの錯綜、脱宗教化と世俗化の一方でファンダメンタリズムや改宗、再入信に揺れる世界。民族や政治など各方面で宗教的な側面を含む諸問題は絶えない。

フランス国立社会科学高等研究院に設けられた宗教事象学際研究センターを拠点に編

## 政治の言語とイメージの嘘を見抜く

カルロ・ギンスブルグ  
上村忠男訳

《政治的イコノグラフィについて》

「人々は自分たちが作りあげたものを信じ込む(タキトウス)、まことに嘘に支配されやすい。政治の言語とイメージの嘘を考えるために。『思想』(四六判・264頁・四八〇〇円)著者既刊・上村訳『歴史・レトリック・立証』糸と痕跡(各三五〇〇円)『ミクロストリアと世界史』(四二二〇〇円)

「答えは本書であつたの頭を焼きたたいこの一語、シグナリングだ。つまり、学生が学校で学んだことがたまたまたたく役に立たなくても、学業成績が学生の生産性に関する情報を提供するものであれば、雇用主は喜んで給料を上げさせるのだ。」(序章より)

【経済学】【七月中旬刊】(四六判536頁・予四六〇〇円)

## 喫緊なテーマの全体像を書き下ろし

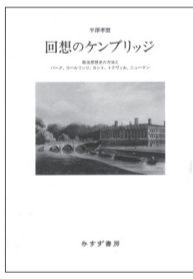
池内了  
《科学者は、なぜ軍事研究に手を染めてはいけないか》

「私は、その後の研究人生の中で、長い時間をかけて少しずつ自覚化されてきた目標がある。その目標とは、最も広い意味で運動論とは距離を取ることを心掛けながら、思想家たちがそれぞれ遭遇した状況の中で、所与の言語的資源の制約のもと、いかにそれを最大限に利用して対処したかを、及ぶ限りの想像力を働かせて描き出す努力をすることである。」(序章)

学問的自伝の色合いを帯びた美しい回想録を導入として緊密に編まれるモノグラフ集成。スキナー、ダン、ポロツクらいわゆるケンブリッジ学派との出会いが、歴史的な思想史追究の方法意識をより明確化した。やがてヨーロッパ

## 二十年を貫く自由意志論思想史へ

半澤孝彦  
《回想のケンブリッジ 政治思想史の方法とバーク、コルリッジ、カント、トクヴィル、ニューマン》

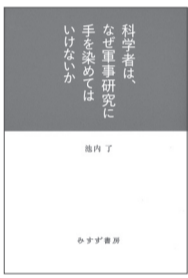


「科学とは社会・政治」(四六判・272頁・三四〇〇円)

「科学者は、なぜ軍事研究に手を染めてはいけないか」(四六判・272頁・三四〇〇円)

「科学とは社会・政治」(四六判・272頁・三四〇〇円)

「科学とは社会・政治」(四六判・272頁・三四〇〇円)



## みすず書房新刊

(2019・2・5)

東京文京本郷2  
区三三三三三三  
(価格は税別です)

### シヨパンの詩学

「人々は自分たちが作りあげたものを信じ込む(タキトウス)、まことに嘘に支配されやすい。政治の言語とイメージの嘘を考えるために。」(思想)

### 海を撃つ

敗北者たち 第二次世界大戦をなぜ終わり損なえたのか 1917-1923

### ドゥルーズとマルクス

近所のコミュニズム

### ケースで学ぶ 自閉症スペクトラム障害と性ガバナンス

超現実主義の1937年

### シユネットル

ユダヤ人の世界

### 大人から見た子ども

メルロ・ポンティ「心理学的に見た幼児の言語の発達」はじめ児童心理学・教育学講義4編を収録。瀧浦・木田・鯉岡訳 三三〇〇円

### これからの微生物学

マイクロバイオロジーからCRISPRへ

### ヴィイータ

遺棄された者たちの生

### 中国経済史

古代から19世紀まで

### 精神分裂病

「新装版」

「新装版」

いかにして日本の精神分析は始まったか 草創期の5人の男と患者たち

西尾奈津子 矢野 丸井 大槻 古映 古澤

パイオニアたちの人生と臨床の記録を丹念に調査し、歴史の暗部に迫る力作。三三〇〇円

心理学の7つの大罪

真の科学であるために私たちがすべきこと

チェインバース 改革の旗手が研究文化に根づいた7つの大罪を暴き、心理学のあるべき未来を提言する。大塚伸一郎訳 四四〇〇円

カール・シュニッツと

その時代

古賀敏太「緊急事態」例外状態」は法秩序とどのように関係しているか。シュニッツの生涯と思想の変容から考察する。六八〇〇円

庭とエスキース

奥山淳志 北海道の丸太小屋で、ある夢を抱えて暮らす舟道さんの「生きる」こと。写真と記憶が紡ぐ、心揺さぶる写真集。三三〇〇円

脳のリズム

ブザキ「脳」の予測能力はリズムから生じる「処理する脳から探索する脳」。新パラダイムの全貌。渡部監訳 谷垣訳 五二〇〇円

リベラリズムの系譜学

法の支配と民主主義は「自由」に何をもちますか

中村隆文 哲学者たちの問題提起と解決の繰り返しの歴史を再検討し、これからの自由を考ふるためのリベラリズム入門。三三〇〇円

死と愛

新版 ロッセラー入門

フランクフルト 人生について、愛について、苦悩について。夜と愛と並ぶ著者の主著の読み易くなった新版。霧山徳爾訳 二七〇〇円

測りすぎ

なぜパフォーマンス評価は失敗するのか?

ミユラー 測定への固執が機能不全に陥る原因と、数値測定の健全な使用方法を明示。巻末にチェックリスト付。松本裕訳 三三〇〇円

アウシユウィッツの巻物

証言資料

チェア／ウィリアムズ ガス室業務を担ったユダヤ人ソビエト連邦者が書き下ろした埋められた文書の全体像。二階宗人訳 六四〇〇円

カントの生涯と学説

「新装版」

カッシーラー「認識問題」を著した哲学者が自らの思想の転換期に、カントを大体系的に捉え直す。門脇 高橋 浜田監修 八〇〇〇円

精神分裂病

「新装版」

ミンコフスキー ベルグソンの影響下、現実との生ける接触の喪失」という概念からの、人間学的把握の試み。村上仁訳 五四〇〇円

新緑の季節、今年は五月二六日に群馬県高崎市倉淵町で小栗まつりが開かれた。小栗の命日前後に行われる年中行事である。この町は熱心な小栗ファン巡礼の地。屋敷建設跡地で半日も、故人に思いをはせる人もいるという。

小栗上野介は外国奉行や勅定奉行を歴任、使節団の目付として渡米し、横須賀造船所建設等により近代化を推進した。しかし薩長側との主戦論を唱えて幕閣を罷免され、その後朝敵の汚名をきせられ官軍によって斬首。その場に建つ慰霊碑には「罪なくして斬らる」と刻まれている。歴史は勝者によって書かれる。



# 忘却への抵抗

マイケル・ワート

《明治維新の敗者たち 小栗上野介をめぐる記憶と歴史》

野口良平訳

幕末維新史も例外ではない。小栗の汚名を雪ごうとする人々の系譜は、当時から現在まで連続と続いている。彼らは斬首の理不尽さに憤り勝者の歴史に異議を唱える人々であり、自身や先祖が敗者側に身を置いた人々でもある。

本書は小栗を明治維新の敗者の代表と位置づけ、この稀有な人物をめぐる記憶を膨大な一次史料、文学作品、大河ドラマ、映画や記念事業から跡づけた。そうした記憶の語りは、起きたこと、存在したこと、かつて知られていたこととの忘却への抵抗であり、敗者の歴史を大文字の歴史に取り戻そうとする努力そのものである。幕末維新史の意味と全体像に迫る新しい手法を示した意欲作。『日本近現代史』

【四六判・304頁・三八〇〇円】  
▼既刊より 野口良平『幕末的思考』(三六〇〇円) 【十七日刊】

## 気鋭の思想家が迫る

『ガイオルターノ』《二つの文化》論争  
増田珠子訳 戦後英国の科学・文化政策

C・P・スノーが一九五九年に世に問うた『二つの文化と科学革命』は現在も各国でロングセラーになっている。邦訳は小社刊。『二つの文化』とは「人文学」と「科学」のことであり、スノーは文学に造詣の深い知識人と自然科学者を対立させ、「文系」と「理系」を対比させて「理系」への支持を訴えたが、事はその是非で済むものではない。

本書は、スノーと論敵リーヴィスの論争を英国の過去・現在、未来をめぐるイデオロギー上の衝突としてとらえ、



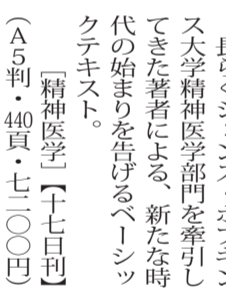
【四六判・304頁・三八〇〇円】  
▼既刊より 野口良平『幕末的思考』(三六〇〇円) 【十七日刊】

## 新時代のベーシックテキスト

『Pマクヒュー/スラヴニー』  
Phスラヴニー 現代精神医学  
澤田明監訳

心臓問題、生物学派と行動学派の派閥主義、DSMという診断名のカタログ……。精神医学はなぜ扱おう者によって多様になり、かくも理解が困難な学問になってしまったのか？

本書は患者が何を「もっている」か(疾患)、患者が生来何で「ある」か(特質)、患者が何を「行っている」か



【四六判・408頁・六二〇〇円】  
▼既刊よりスノー『二つの文化と科学革命』松井登之助訳  
コリーニ解説(増田訳)(二八〇〇円)レイモンド・ウィリアムズ『共通文化にむけて文化研究Ⅰ』想像力の時制文化研究Ⅱ(川端康雄編訳)(五八〇〇円)②(六五〇〇円)

## 月刊雑誌

《みすず》最近号より  
松本俊彦「神話を乗り越えて」/武田尚子「ナイロンのネグリジェから」/郷原佳以「私は書く」の現前性から「私は死んでいる」の可能性へ(二) (四月号) 酒井啓子「アラブがハリウッドのヒーローを演じる」ということ、雑感/中村和恵「さよならマークス、さよならローズ」/土屋健「機能獲得の進化史—あし」/矢野久美子「世界喪失に抗つて」(五月号) 五十嵐太郎「ブランド建築が勃興した平成の東京」/小野寺拓也「フリスト・インターナショナル」/グローバル・ヒストリーとしてのファシズム/繁内理恵「基地の町に生きる少女たち」(六月号) (各三〇〇円) あわせてどうぞ。

## 現代精神医学

「私は精神療法を二つに分けた。狭義と広義とを区別してきた。具体的な一つのドクトリンにもとづき一つの流派を形成して、あるスタイルとマナーに従って治療行為を行うのが狭義の精神療法である。広く経験にもとづき、患者の回復に貢献するであろうアプローチを行うのが広義の精神療法である。薬物処方患者に手渡す際に好ましい態度を私が強調しつづけたのも、睡眠で改善の段階づけを行ったのも広義のほうである。もともと広義では、精神科医いや医療者の一挙一動が精神療法的意味を持つことになる。狭義の精神療法は、広義の精神療法が良質であること

不朽の名作である。このような大仰な言葉を書評に使用したくないが、『海を撃つ』は文字通り、原発事故後に多々出された本の中でも、最も遠い未来まで朽ちない意義を持ち続けるだろうと確信できる。

それはなぜかと言えば、普遍的な人間を描いているからだ。「将来は何が起こるかかわからない」という言葉、描かれた個人線量計のグラフへの反応。それら表出されたことのひとつひとつの背後にある地域の人たちの営みや心の機微を、安東さんは繊細に読み解こうとし、「原子力災害がどう人々に生きられているのか」ということを、ときに訥々としながらも描き出そうとする。その姿勢は、彼女が活動を続けて

## 五十嵐泰正

安東量子  
《海を撃つ》  
福島・広島・ベラルーシにて  
を読む



この本を紹介する意図には、評者は違和感を覚える。『海を撃つ』は確かに、豊かな想像力と際立つた筆力に恵まれた作者による美しい文章で彩られているが、安東さんの想像力は幻想や妄想の類とは正反対

の正統な知の技法そのものであり、経験したことのない事態に直面した人々の課題を考うるうえで、人文知識にしかなしえないのはこういうことなんだと、鮮明に教えてくれる。

安東さんが晒された毀誉

「私は精神療法を二つに分けた。狭義と広義とを区別してきた。具体的な一つのドクトリンにもとづき一つの流派を形成して、あるスタイルとマナーに従って治療行為を行うのが狭義の精神療法である。広く経験にもとづき、患者の回復に貢献するであろうアプローチを行うのが広義の精神療法である。薬物処方患者に手渡す際に好ましい態度を私が強調しつづけたのも、睡眠で改善の段階づけを行ったのも広義のほうである。もともと広義では、精神科医いや医療者の一挙一動が精神療法的意味を持つことになる。狭義の精神療法は、広義の精神療法が良質であること

## 「統合失調症の有為転変」

ほか全37編

中井久夫集 11 [全巻完結]

《患者と医師と薬とのヒポクラテス的出会い》  
2009-2012》

「私は精神療法を二つに分けた。狭義と広義とを区別してきた。具体的な一つのドクトリンにもとづき一つの流派を形成して、あるスタイルとマナーに従って治療行為を行うのが狭義の精神療法である。広く経験にもとづき、患者の回復に貢献するであろうアプローチを行うのが広義の精神療法である。薬物処方患者に手渡す際に好ましい態度を私が強調しつづけたのも、睡眠で改善の段階づけを行ったのも広義のほうである。もともと広義では、精神科医いや医療者の一挙一動が精神療法的意味を持つことになる。狭義の精神療法は、広義の精神療法が良質であること

日本の精神医学に新たな道を切り拓いた精神科医、中井久夫 その半世紀に及ぶ思考と実践の道筋を追う

# 中井久夫集

 全11巻 完結 全巻解説 最相葉月

第11巻 7月刊 本面にご案内

理論と臨床。思想と行動。知識と知性。洞察と優しさ。ある種の「ねじれ」のもと、ひとりの人間の中で、それらが奇跡的にも両立しうることを示してくれたひとは、中井久夫を措いてほかにない。その文章は、日本語による最もみごとな科学と詩の共鳴混成体であり、一切の体系化をしりぞける「箴言知」として、北極星のごとく瞬いている

第1巻『働く患者』書評 斎藤環 (毎日新聞 2017年3月19日)  
第6巻『いじめの政治学』書評 柄谷行人 (朝日新聞 2018年5月19日) 他

中井久夫集 1 1964-1983	3200円
「世に棲む患者」など初期20編。	
中井久夫集 2 1983-1987	3200円
「つながらり」の精神病理「神戸の光と影」など36編。	
中井久夫集 3 1987-1991	3200円
「昭和」を送る「微視的群れ論」「家族の深淵」など26編。	
中井久夫集 4 1991-1994	3400円
「精神科医がものを書くとき」「Y夫人のこと」など32編。	
中井久夫集 5 1994-1996	3400円
「災害がほんとうに襲った時」「震災後の動植物」など28編。	
中井久夫集 6 1996-1998	3400円
「喪の作業としてのPTSD」「記憶について」など30編。	
中井久夫集 7 1998-2002	3600円
「阪神間の文化と須賀敦子」「安克昌先生を悼む」など31編。	
中井久夫集 8 2002-2004	3600円
「統合失調症とトラウマ」「踏み越え」について「身体多重性」など28編。	
中井久夫集 9 2005-2007	3600円
「日本社会における外傷性ストレス」「戦争と平和についての観察」「樹をみつめて」など29編。	
中井久夫集 10 2007-2009	3600円
「認知症に手さぐりで接近する」「SSM、通称丸山ワクチンについての私見」など28編。	

〒113-0033 東京都文京区本郷 2-20-7 tel. 03-3814-0131 fax 03-3818-6435

www.ms.co.jp ニュースレター(月2回配信) ウェブサイトよりお申し込みください ツイッター www.twitter.com/misuzu\_shobo インスタグラム www.instagram.com/misuzu\_shobo/ (価格は税別です)

### 書物復権

11出版社共同復刊 [5月]

#### 一般言語学

ヤーコブソン 構造言語学そして現代思想の形成に寄与した、言語学者による論文集。川本茂雄監修 ¥6400

#### 法の概念

ハート 法とは何か。第一次のルールと第二次のルールの結合から法体系を位置づける。矢崎光園監訳 ¥4400

#### スターリン時代

元ソヴィエト諜報機関長の記録 クリヴィツキー ながらく偽書ともされた最初の告発書。現代史の第一級ドキュメント。根岸隆夫訳 ¥4500

#### 女性にとっての職業

ウルフ 「語るべき自己」をもつ女性の内面と歴史を照射した、表題作ほか全26篇。出淵・川本監訳 ¥3200

#### 人間機械論 第2版

人間の人間的な利用 ウィーナー サイバネティックスの創始者が、コミュニケーションの理解を目指す。鎮目・池原訳 ¥3500

### 新装復刊

[7月]

#### 定義集

アラン フランスの哲学者による、ものごとと思想の関連を見事に表した210語の定義。森有正訳 ¥3200

#### ケアへのまなざし

神谷美恵子 『生きがいについて』の著者による医療と看護をめぐるエッセイ・論文集。外口玉子解説 ¥3000

#### アラン島

シング 苛酷な自然の中で独自の文化を育む島人たち。その暮しを描く紀行文学の傑作。榎木伸明訳 ¥3200

#### 死ぬことと生きること

土門拳 戦後日本の矛盾と日本人を凝視したエッセイ集。強靱な写真の謎を自ら明す。星野博美解説 ¥3300

#### ぼくの美術帖

原田治 古今東西の美を巡る旅へ、日本美術の源流を探る旅へ。アートへの愛が溢れるエッセイ集。¥2700



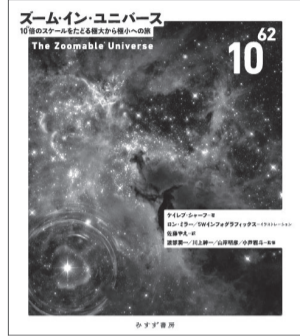
浮遊惑星から見た「銀河の出」(本書より)

## この世で一番スケールの大きな話をしよう



炭素原子 (本書より)

ケイレブ・シャーフ  
ロン・ミラー／5Wインフォグラフィックス=イラストレーション  
《ズーム・イン・ユニバース  
10<sup>62</sup>倍のスケールをたどる極大から極小への旅》  
佐藤やえ訳 渡部潤一・川上紳一・山岸明彦・小芦雅斗監修



その道中、著者は旅のガイドとして、各スケールでの見どころとその風景を構成している現象について語り聞かせる。ダークマターとダークエネルギーの働きや、炭素原子核の合成を促進する「三つの偶然」についてなど、多岐にわたる解説を通じて、読者はさまざまな分野を横断していく。読むほどに疑問が湧いてくる本でもある。未解明の問題

宇宙は、いったいどこまで続いているんだろう。この指先を顕微鏡でどんどん拡大していったら、その先に何があるんだろう。誰もが子供の頃に抱いた素朴な疑問に答えるため、惑星科学者は、この世で一番スケールの大きな宇宙旅行を企画した。一四〇点を超えるイラストレーションによって、この宇宙について科学が明らかにしてきたこと(そして、まだわかっていないこと)を一望する一冊。本書は、宇宙の観測限界(約10の27乗メートル)からプランク長(10のマイナス35乗メートル)まで、10の62乗倍ものスケールを10倍ずつズームしていく。その過程で、読者は宇宙の大規模構造を眺め、天の川銀河を見下ろし、太陽の誕生に立会い、さまざま

まな系外惑星に降り立つ。ケニアの上空から生態系を眺め、細胞の内部に入り込み、炭素が作る精妙な構造物群の脇をすり抜けて、原子の、原子核の、陽子の内部へと突き進んでいく。その道中、著者は旅のガイドとして、各スケールでの見どころとその風景を構成している現象について語り聞かせる。ダークマターとダークエネルギーの働きや、炭素原子核の合成を促進する「三つの偶然」についてなど、多岐にわたる解説を通じて、読者はさまざまな分野を横断していく。読むほどに疑問が湧いてくる本でもある。未解明の問題

1934年から翌年にかけて、25歳のヴェイユはリセの教職を離れ、アルストン、ルノーなど三つの工場で一女子として働いた。労働と労働者の関係について深く思考し、真の認識に至る道は自身が労働者となる以外にない。両親の家を出て給料で粗末な部屋を借り、作業場の仲間とおなじ物的条件の中に生き、死ぬまで消えない「奴隷」の刻印をうけながら、工場で働いたヴェイユ。日々遭遇する苛酷な現実の中に生まれる思考と感情の跡を、あまざす書き留めた「工場日記」の断片の物理的順序と思考の流れを組み立てなおし、新たに、工場労働にまつわる固有な内容を施し解説(佐藤紀子)をも加えた決定版。「現代思想」(七月上旬刊)(四六判224頁・予四二〇〇円)▼既刊『シモーヌ・ヴェイユ選集』全3巻 富原訳 1初期論集 2哲学修業 3中期論集 4労働・革命 5後期論集 6霊性・文明論 (1)②各四八〇円 (3)⑤六〇〇円)

本書の特色▼豊富なグラフィック部分を楽しまながら最新知識に触れられる構成。難解な概念もイラストで解説。高校レベルの科学知識で読み通せる▼授業では別科目として習う「宇宙」「生物」「物理」「化学」を一つながりに描く学際的・包括的視点▼調査学習の参考書にも最適▼各項目で一冊ずつ本が書けるほど幅広いジャンルの見聞が凝縮。現在考えうる最大スケールの科学書▼天文学・地球科学・進化生物学・量子エレクトロニクスなどの各専門家が日本語版監修

### 名著新訳を単行本化、詳細な校閲

シモーヌ・ヴェイユ 富原真弓訳 佐藤紀子解説 《工場日記》



ヴェイユ

「奴隷」の刻印をうけながら、工場で働いたヴェイユ。日々遭遇する苛酷な現実の中に生まれる思考と感情の跡を、あまざす書き留めた「工場日記」の断片の物理的順序と思考の流れを組み立てなおし、新たに、工場労働にまつわる固有な内容を施し解説(佐藤紀子)をも加えた決定版。「現代思想」(七月上旬刊)(四六判224頁・予四二〇〇円)▼既刊『シモーヌ・ヴェイユ選集』全3巻 富原訳 1初期論集 2哲学修業 3中期論集 4労働・革命 5後期論集 6霊性・文明論 (1)②各四八〇円 (3)⑤六〇〇円)

### みすず書房

#### 近刊のお知らせ

8-10月の刊行予定から(書名は仮です)

- きのこのなぐさめ  
ロン・リット・ウーン 梶谷玲子・中村冬美訳  
真実なる女性 クララ・シューマン 原田光子
  - 現実のユートピア フランコ・バザーリア著作集 F.O.バザーリア編 梶原徹訳
  - 恐竜全史 スティーヴ・ブルサット 黒川耕大訳
  - フロイディアン・ステップ 十川幸司
  - 世界の果てのマツタケ アナ・チン 赤嶺淳訳
  - 責任の時代 ヤシカ・マンク 那須耕介訳
  - アリストテレスのラグーン [全2巻] アルマン・マリー・ルロワ 森夏樹訳
  - エクソダス ポール・コリアー 松本裕訳
  - 自然を読みとる力 ハロルド・ギャティ 岩崎晋也訳
  - アウシュヴィッツ潜入 ヴィトルト・ピレツキ 杉浦茂樹訳
- (www.mszc.jp/book/new/にもご案内)

### みすず書房・最近の重版より

- 死を生きた人びと——訪問診療医と355人の患者 小堀嶋一郎 ¥2400
- 第一印象の科学 A.トドロフ 中里京子訳 作田由衣子監修 ¥3800
- エコノミクス——マンガで読む経済の歴史 M.グッドウィン D.E.バー画 脇山美伸訳 ¥3200
- サバルタンは語る事ができるか G.C.スピヴァク 上村忠男訳 ¥2700
- 夜と霧——ドイツ強制収容所の体験記録 V.E.フランクル 霜山徳爾訳 ¥1800
- ゾミア——脱国家の世界史 J.C.スコット 佐藤仁監訳 ¥6400
- 世界はうつくしいと [詩集] 長田弘 ¥1800
- 食べなくなる本 三浦哲哉 ¥2700
- ロシア・ピアニズムの贈り物 原田英代 ¥3600
- 生存する意識——植物状態の患者と対話する A.オーウェン 柴田裕之訳 ¥2800

### みすず書房 営業部だより

今年も書物復権の会の共同復刊が実施され、リクエストが多く集まった45点、49冊が、書店店頭で展示販売されています(開催書店は弊社ホームページ www.mszc.jp でご確認ください)。弊社からの復刊5点は本面上にご案内。共同復刊事業は23年目となり、今回の書目を加えると約千点を復刊したことになりました。岩波書店、東京大学出版会、法政大学出版局と弊社の4社でスタートした企画は、新たに創元社が加わり11社の会に。さらに復刊書を増やし、ご期待に添いたく思います。原田治展が東京・世田谷文学館で7月より開かれます。これを記念して『ぼくの美術帖』を新装版で刊行いたします。展示会場、書店店頭にて、ぜひお手にとりください。

第67回日本エッセイスト・クラブ賞受賞 『死を生きた人びと』 小堀嶋一郎

奥山淳志 第35回写真の町東川賞 特別作家賞 受賞 受賞作家作品展 8月

患者に寄り添い、最期の在り方を模索する医師の書。日本終末医療在宅診療・在宅看取りへ大きく舵を切りつつある今、この本を。受賞作『死を生きた人びと』訪問診療医と35人の患者』は、これまで大きな反響をよび重版15刷出来た。 (二四〇〇円) 2019年日本建築学会賞 受賞 松隈洋 『建築の前夜 前川國男論』 建築家・前川國男(一九〇五—八六)の前半生、敗戦までの軌跡を追う決定版評伝。戦時下の体制への建築家の関与や抵抗をも検証。(五四〇〇円) 写真家の奥山淳志氏が、写真集『弁造 Benzo』および写真展「庭とエスキース」により、写真の町東川賞を受賞されました。受賞作家作品展は今夏8月3日(土)より北海道東川町文化ギャラリーにて。奥山淳志「庭とエスキース」好評です。「弁造さんの「生きること」を思い綴られた文章と写真からなる写文集(本紙二面下に広告)。刊行記念のトーク&スライドショー、オリジナルプリント展や、弁造さんの原画展を各地の書店で開催。現在は本屋 Title (東京・荻窪)で「弁造さんのエスキース展」25日(火)まで。